

施策V-2：外交情報通信基盤の整備・拡充

施策目標：

外交通信の安定運用のため、一層のセキュリティ強化を図るとともに、ITによる行政運営の簡素化・効率化・合理化を推進する。

施策評価（総括）：

これまで、技術面及び人的側面の両面においてサイバーセキュリティ対策を強化するとともに、柔軟な働き方の実現及び業務効率向上のための環境整備を行い、省内個別システムの全体最適化を推進してきた。同時に、必要な規程の改正や整備、全職員向けに必要な教育啓発、研修などを実施した。今後は、デジタル技術の急速な発達やサイバーセキュリティ攻撃の高度化・巧妙化により、これらへの対応力を一層増強していく必要がある。この観点から、セキュリティ意識の更なる向上を推進し、欧米主要国と同等以上の強固な情報セキュリティ基盤を整備・拡充すると同時に、AI等の先端技術の取り込みも視野に入れた情報システムの開発・運用により、働き方改革を推進する。

外部有識者の所見（概要）：

- サイバーセキュリティ強化に向けたサイバーセキュリティポリシーの整備・研修の実施・リスク対策は評価でき、また、時差や距離がある中での外交活動における働き方改革及び業務合理化に向けた様々な取り組みについても評価できる。今後の方向性も適切なものと見受けられる。
- 外務省では生成AIサービスを試験導入し、一部業務に活用した。本措置は、外交文書作成や議事要旨の草案作成、行政文書の要約といった業務の省力化を通じ、人的リソースの再配分と戦略的思考への集中を図るものである。特に、国産AI基盤を用いた運用や、非機密領域に限定した段階的導入は、情報安全保障上の配慮がなされた優良な実践と評価できる。今後、生成AIが外務省全体のナレッジ基盤として進化する可能性を見据えれば、単なる業務効率化ツールにとどまらず、外交アーカイブの検索支援、過去事例の類似抽出、初期ブリーフ案作成などに応用できる余地もある。外交実施体制やワークライフバランスを大きく改善させる可能性があり、セキュアな環境で利活用できる制度が設計されることが望ましい。
- 変化の早いセキュリティ環境については、適時適切に対応を講じていただきたい。十分な予算措置の下、着実な取組の進展を期待する。

予算額・執行額等	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
施策の予算額・執行額等 (分担金・拠出金除く)					
同(分担金・拠出金)		(注) 本施策は、外務省全体の予算に関わっており、特定の項の下では計上されていない。			